

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

2019/3/15

りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ 景気判断を下方修正（海外経済減速の影響について言及）
- ◆ 日銀の政策スタンスは当面様子見の見通し

✓ 日本銀行は3月15日の金融政策決定会合にて、「**長短金利操作付き量的・質的金融緩和**」の継続を決定した。

✓ 主な政策は以下の通り。

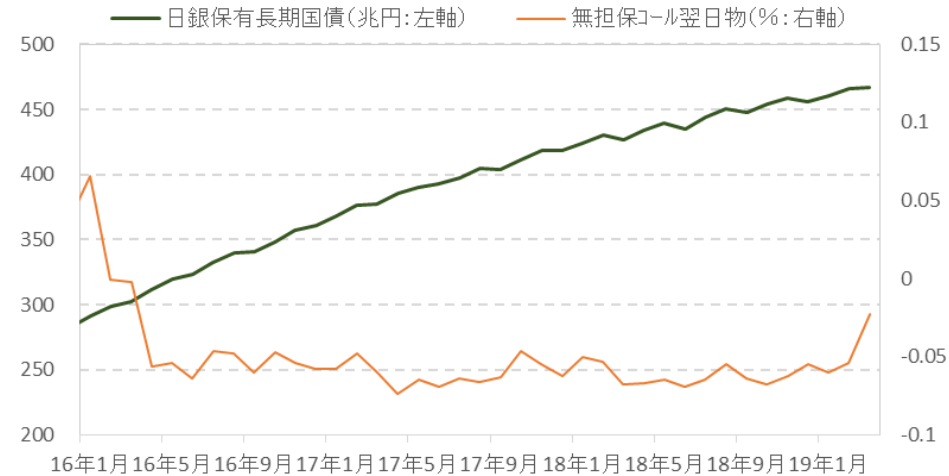
✓ 政策金利のフォワードガイダンス：2019年10月に予定されている消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持。

✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間80兆円をめどとしてつつ弾力的に実施。金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。

✓ 足元の景気判断については、「**緩やかに拡大している**」との見方を維持した一方、「**輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられる**」との文言を付け加えた。個別項目については海外経済・輸出・生産についてそれぞれ右表のとおり変更した。先行きについては、「**当面、海外経済の減速の影響を受けるものの、緩やかな拡大を続けるとみられる**」とした。

✓ 政策運営方針については、米国や欧州で緩和的な動きがみられる中で、「**日銀も現行の緩和的なスタンスを維持**」した一方、一部に観測のあった緩和強化の動きはみられなかった。景気判断についても、海外経済の影響を指摘した一方「**緩やかに拡大**」との基本スタンスを維持し、現時点での政策変更が不要とする方針を示した。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【景気判断の変更点】

項目	1月 (前回)	3月 (今回)
総括判断	緩やかに拡大している	輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大している
海外経済	総じてみれば着実な成長が続いている	減速の動きがみられるが、総じてみれば緩やかに成長している
輸出	増加基調にある	足元が弱めの動きとなっている
鉱工業生産	増加基調	足元では弱めの動きとなっているが、緩やかな増加基調にある

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。